

二〇二一年度

入学試験問題

(二月一日午前)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙八ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

①人間はなんといつても視覚の動物である。「人間の五感について」といわれたら、まず視覚から語りはじめねばなるまい。

昔からよくいわれていることだが、光は宇宙の太古からあったのではなかった。地球が生まれても、光はまだなかった。

もちろん、太陽からの放射はその当時から地球に(あ)降りそそいでいた。けれどそれは、一種の放射線、一種の電磁波にすぎなかった。

地球上に動物が生まれ、それが目をもったとき、そしてその電磁波の一部がその目で受けとめられたとき、それは初めて「光」になったのである。

人間はその光の中に色を見ることができると。

夜行性の哺乳類は、色をそれほど明瞭に見ることはできない。けれど、動物は人間とちがって色盲だというのはうそである。サルも多くはすぐれた色感をもっている。大部分が昼間活動する鳥たちも、人間と同じくらいよく色が見え、形が見える。だから、木の枝やハチに「擬態」している昆虫にもっともよくたまされるのは、鳥と人間である。

昆虫もよく色が見える。おまけに彼らには、人間には見えない紫外線が、一つの独特な色として見えている。この「紫外線」という色は、人間にはまったく経験することのできない色である。われわれが見て知っているさまざまな色の他に、いったいどのような色があるのか、想像すらつかない。

②五感について語るときは、必ずといってよいほど動物の超能力が話題になる。紫外線を一つの色と見る昆虫の能力も、たしかに「超能力」の一種だろう。

けれど、ミツバチやモンシロチョウをはじめ、多くの昆虫には赤は見えない。赤は彼らにとってはもはや光ではなくて暗黒である。その意味では、昆虫からみれば人間は赤が見えるという超能力をもっていることになる。

したがって、「動物の超能力」や「人間のすぐれた視覚」を一般的に論ずることはナンセンスである。問題は何を、どのように見ているかということだ。

ネコも視覚動物である。嗅覚動物であるイヌとはまったく異なっていて、ネコはまず目で見てものをたしかめる。匂いで知るはそのあとだ。

ところが、いろいろと試してみると、ネコたちは③たいへんふしぎな見方で世界を見ているらしいことがわかってくる。

かつて、「わくわく動物ランド」というテレビ番組で、ネコがそれまで知らなかった新しい場所におかれたらどうするかを実験してみた。知らない人の家へ連れていったりする実験の次に、うちの二階の部屋の家具をすべて取り払い、かわりにいす、机、窓などを描いた大きな絵を壁に貼った。

連れてこられたネコは、まず不安そうに鳴き、それから早足で絵に近づいていった。そして、絵に描かれたいすや机の足を見つめ、それから鼻をつけて匂いをかいだ。

絵であるから当然、ネコが期待していたであろうはずの匂いはしない。次々に机やいすの足をかいだのち、ネコはいきなり絵の中の窓の方向へ跳びあがった。そして、絵の描かれた紙にしがみついたので、ネコは絵とともに床へころげ落ちた。

つまり、人間が絵を見て実物を想像する以上に、ネコは平面的な絵を見て立体的な実物と思うらしいのである。そのもつとも極端なのは、ネコそのものに対するネコたちの認知である。

人間が見てかわいらしいネコの縫いぐるみは、ネコたちにはネコと認知されない。彼らはまるで大きなネズミに対するようにそれを扱う。つまり、手を伸ばしてひよいとひっかけ、遊びはじめてしまうのである。

ところが、あるオスネコは、毛ばだつてなどいない陶製の実物大のネコの置物を完全にネコと見まちがえた。彼は毛を逆立ててその置物に近寄り、猛烈に攻撃的な態度に出たのである。彼がついに④勇を鼓して爪で置物になぐりかかり、カチンという音がするまで、彼は自分のまちがいに気づかなかつた。

そしてもつと驚くべきことには、白い紙に黒いマジックで描いた実物大のかんたんなネコのスケッチを、ネコたちはほんもののネコと思うのである。この絵を壁に立てかけると、ネコたちはすぐとんできて、鼻をすりつけて匂いをかぐ。

(中略)

嗅覚についてはどうだろうか？ 人間は嗅覚が退化しているとよくいわれる。イヌは人間の何万倍、昆虫はさらにそれを上まわるほど嗅覚が鋭敏であるという。

たしかにそうもいえるだろう。そのような意味での鋭敏さでは、人間はとても彼らにはかなわない。

けれど、昆虫は自分の種のメスが発する性フェロモンの匂いとか、その虫が食物としている植物の葉とか、他個体の虫から発する匂いには極端に敏感かもしれないけれど、それ以外の匂いにはまるで感じないも同然である。かぐわしい香水やグルメ料理の香ばしい香

りなど、もしその匂いの中にその虫にとって関心をひく成分が含まれていないかぎり、それはこの虫にとって存在しないに等しい。

その点では人間のほうがよほど嗅覚が発達している。さまざまな種類の匂いを感じ、快・不快を憶える。不快な匂いは人間を病気にすらしかねない。イヌやネコにかぎらず^⑤一般に哺乳類は、情報として糞や尿の匂いをやたらと重視する。彼らは自分の住んでいる場所にひんぱんに糞や尿で匂いづけ（セント・マーキング）をおこなう。したがって彼らの住みかには糞尿の匂いがたちこめているはずである。人間にはとうてい我慢できる状態ではないであろう。その点では彼らのほうが嗅覚的には人間よりよほど鈍感だともいえる。

聴覚、味覚、触覚についても、同じようなことである。

多くのコウモリの聴覚はきわめてすぐれており、自分の発した超音波の反響によって、まわりの状況をはじめ、えものである小さな虫の存在までキャッチできる。けれど彼らの聴覚は、大幅に超音波域にずれてチューニングされている。人間にとつての可聴音は、コウモリにはごく大ざっぱにしかとらえられない。したがって、人間が楽しむ音楽は、彼らにとつてはほとんど関心をもてない雑音である。コウモリからみれば、人間は驚くべき超能力をもっていることになる。

味覚、触覚についていわれる「微妙な舌ざわり」、「ふんわりした手ざわり」、「絹のような肌ざわり」などという表現が示すとおり、人間の感覚はじつに細やかである。視覚にしても、おそろしく字画の多い漢字をちゃんと見分けることができる。オールラウンドにこれだけ細かな感覚をもっている動物は、人間の他にはいない。何のためにこのような感覚能力が進化したのかよくわからないが、他の動物における特殊化した感覚と同じく、それが人間の生存にとって何らかの意味をもっていたことはたしかだろう。

人間は自分の感覚の細やかさを誇るのはいいが、それを動物よりすぐれたものと考えたり、あるいは逆に、（い）を羨んだりするのは、どちらもおかしいことである。

（日高敏隆『動人物 動物のなかにいる人間』より）

問一 本文中には次の一文が抜けています。どこに入りますか。直前の十字を抜き出して答えなさい。

しかもきわめて明瞭に。

問二 — 線部①「人間はなんといっても視覚の動物である」とありますが、なぜそういえるのですか、自分の言葉で答えなさい。

問三 本文中の（あ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア るるると イ きんきんと ウ りんりんと エ どんどんと オ さんさんと

問四 — 線部②「五感」とありますが、それは何ですか。あてはまるものを全て本文中から抜き出して答えなさい。

問五 — 線部③「たいへんふしぎな見方で世界を見ているらしい」とありますが、具体的に説明している部分を、本文中から、二十字で抜き出して答えなさい。

問六 — 線部④「勇を鼓して」とありますが、その意味を分かりやすく答えなさい。

問七 —線部⑤「一般に哺乳類は、情報として糞や尿の匂いをやたらと重視する」とありますが、それはなぜですか。その理由としての次の一文の（ ）にあてはまる言葉として最もふさわしい漢字二字の熟語を、本文中から抜き出して答えなさい。

自身の（ ）戦略が有利となるように活動範囲に匂いづけをするため。

問八 本文中の（ い ）にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問九 次のア～エのうち、本文と内容が合うものには○、そうでないものには×を答えなさい。

- ア 人間は超音波を感じることができないが、多くのコウモリはそれを使いこなせる聴覚に秀でた生き物である。
- イ ネコやイヌ等の哺乳類は、まず目で対象を認知してから嗅覚でさらに確認するという視覚動物であるといえる。
- ウ 人間は「紫外色」をはじめとして明瞭な色や形を見ることができ、全般的に非常に細やかな感覚を持っている。
- エ 人間は嗅覚が衰えているといわれるが、他の哺乳類や昆虫と比較した場合、鋭敏であるということもできる。

問十 あなたの感覚能力の中で、最も優れていると思うものを、具体例を挙げて二百字以内で書きなさい。

二

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

サツコンボウサイニタイスルイシキヲタカメルコトノヒツヨウセイガサケバレ
ルヨウニナツテイマス。サイキンヒサイシヤノカタノナマノコエヲキクキカイ
ガアリマシタ。ジゼンノソナエトシテヒナンサキヲチカクニサガシテオクマズ
ハジシンノイノチヲマモルコトヒトリデハナイカナラズダレカガタスケテクレ
ルカラケツシテアキラメルコトノナイヨウニトノコトデシタ。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) つまらない世評を気にするな。
- (2) 悪いとは毛頭思わない。
- (3) 草原で車座になって話し合う。
- (4) もうすぐ新校舎は形を成す。
- (5) この成功は彼に負うところが大きい。
- (6) 港にとまっているタンカーのことをユソウセンという。
- (7) インヨウの多い文章。
- (8) ハカクの値段。
- (9) 星の明るさにはトウキユウがある。
- (10) シカの二割引きで売る。

四

次の(1)～(5)の各文の□の中に、ひらがな一字ずつを入れて、正しい文にしなさい。

- (1) 決して他人の悪口は言う□□□□と意思いました。
- (2) あの虫を是非^ぜとらえ□□□□のです。
- (3) それはまるで夢の□□□□ことでした。
- (4) たとえあなたが反対し□□□□、私は実行するつもりだ。
- (5) 多分それは夏ミカンにおいて□□□□□□。

二〇二二年度 国語 国語 解答用紙 第一回 (二月一日午前)

受験番号		

氏名	

得点	
	*

*印のところは、何も記入しないでください。

問一																			
問二	[Blank area for question 2]																		
問三																			
問四	[Blank area for question 4]																		
問五																			
問六	[Blank area for question 6]																		
問七																			
問八																			
問九																			
問十																			

小計	
	*

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

(7)	(4)	(1)
	す	
(8)	(5)	(2)
	ろ	
(9)	(6)	(3)
(10)		

小計 四 *

小計 三 *

小計 二 *

受験番号			
------	--	--	--

氏名	
----	--

--	--

*印のところは、何も記入しないでください。

得点	
----	--